

当院の多職種連携における各職種間の認識と現状

手稲溪仁会病院 リハビリテーション部¹、臨床研修部²

○河田 明莉¹、渋谷 保紀¹、田中 寛平²

札幌市病院学会 利益相反の開示

筆頭演者名：河田 明莉

私は本演題に関連して、開示すべき利益相反はありません。

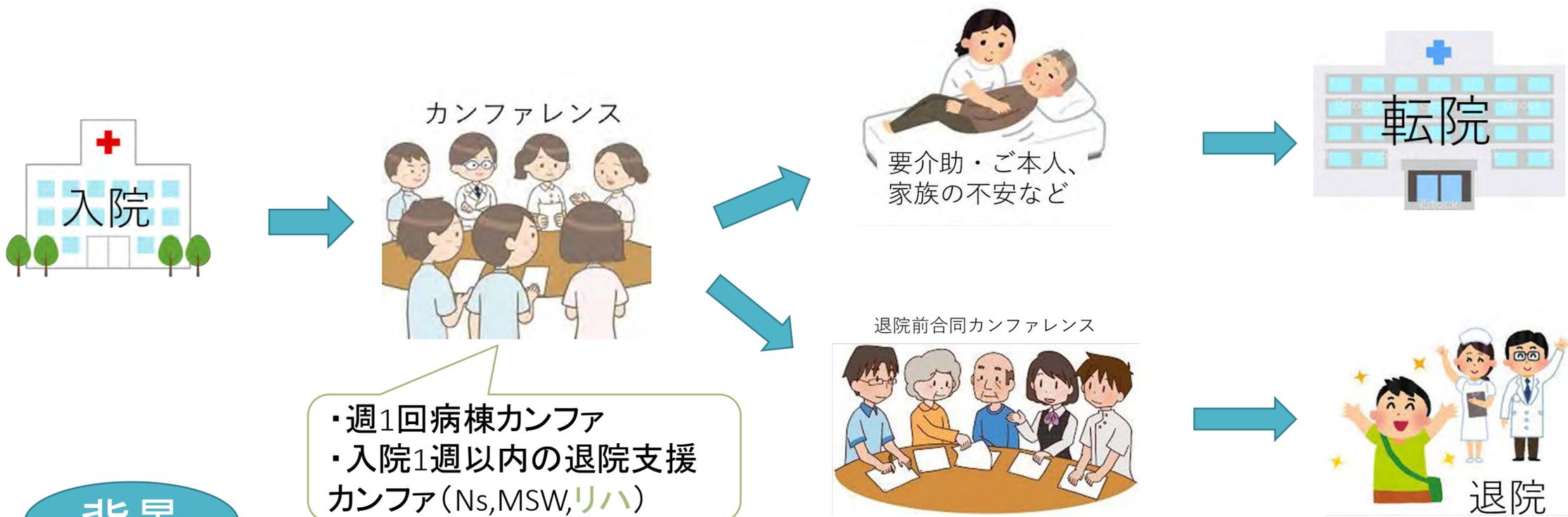
はじめに チーム医療とは

チーム医療とは、一人の患者に複数のメディカルスタッフ(医療専門職)が連携して、治療やケアに当たること。

リハビリの役割

患者さんが抱える問題を、▽心や体の働き・身体構造▽社会生活における活動に参加できるかどうか▽生活環境(＝おもに、自宅や買い物先など、普段の生活圏内)▽社会的環境(＝会社、学校、地域コミュニティーなど)、それぞれの側面から評価・分析し、様々な手段を使って早期退院・早期社会復帰を目的とする。

入院から転帰までのながれ



- ・急性期病院の役割として、機能予後の予測に基づいた転帰先の選択において早期に多職種間での情報共有が必要
- ・カンファレンス後に状況変化していると、病棟とリハで方向性にずれが生じることも多い。
- ・リハビリ場面において退院可能と予測していても、連携不十分により患者の意向に添えなかったと思うことがある。

目的

日々の業務の中で、患者についての連携は問題なく行えているのか、病棟に勤務するメディカルスタッフが他職種に対してどのような認識をもって普段から接し、連携を行っているのかアンケート調査を行い、改善策を検討することを目的とした。

方法

2018年12月10日から28日に当院院内向けオンラインアンケートで
自由意志による回答を得て、結果は各データから割合を算出した。

本研究は当院倫理委員会の承認を得て実施した。

対象

医師 : 初期研修医、後期研修医および専攻医

看護師 : 総合内科および消化器外科病棟の管理職以外のもの

薬剤師 : 管理職以外、かつ病棟勤務のもの

リハビリ : 管理職以外、かつ病棟に携わるPT・OT・ST

栄養士 : 管理職を含めた病棟に携わるもの

MSW : 管理職を含めた病棟に携わるもの

アンケート内容

①他職種への認識；

最も関わる職種・話しやすさ・業務理解度、
各職種との関係性、連携の出来、他職種がどう業務をしているか興味があるか

②カルテ；

各職種のカルテの見やすさ、方向性の伝わりやすさ

③専門性；

他職種へ専門性を活かしているか、
話しかける頻度、他職種に話しかける際に躊躇した頻度とその職種

結果 回答率

医師 (Dr) : 71% (40/56人)

看護師 (Nrs) : 58% (25/43人)

薬剤師 (PC) : 95% (18/19人)

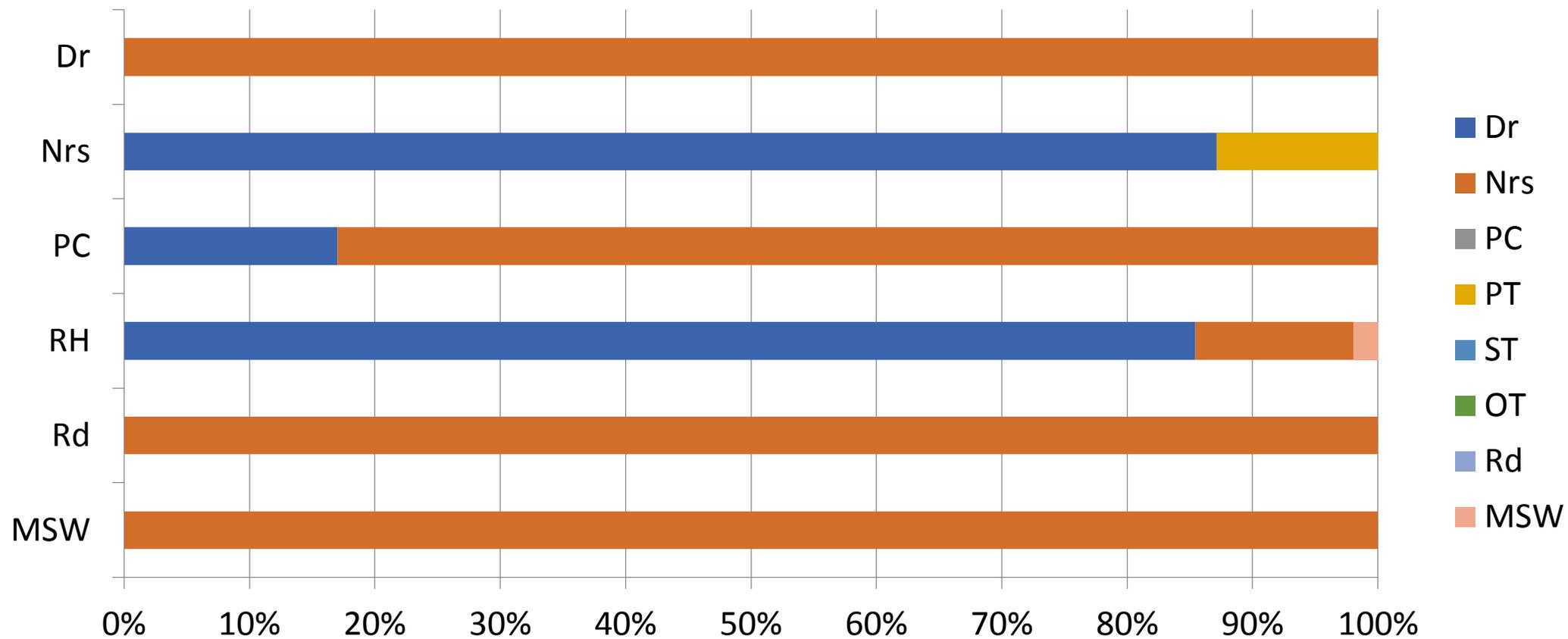
リハビリ (RH) : 80% (47/59人)

栄養士 (Rd) : 100% (8/8人)

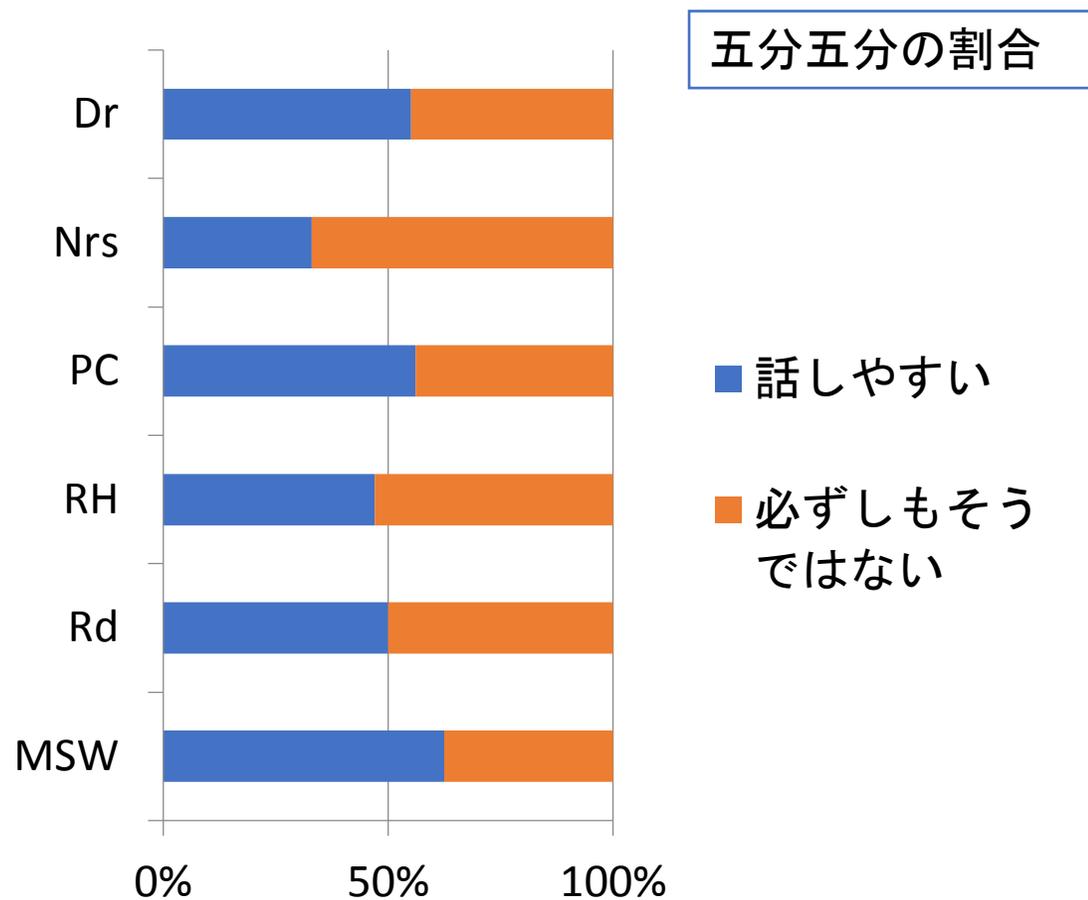
MSW : 100% (8/8人)

①他職種への認識

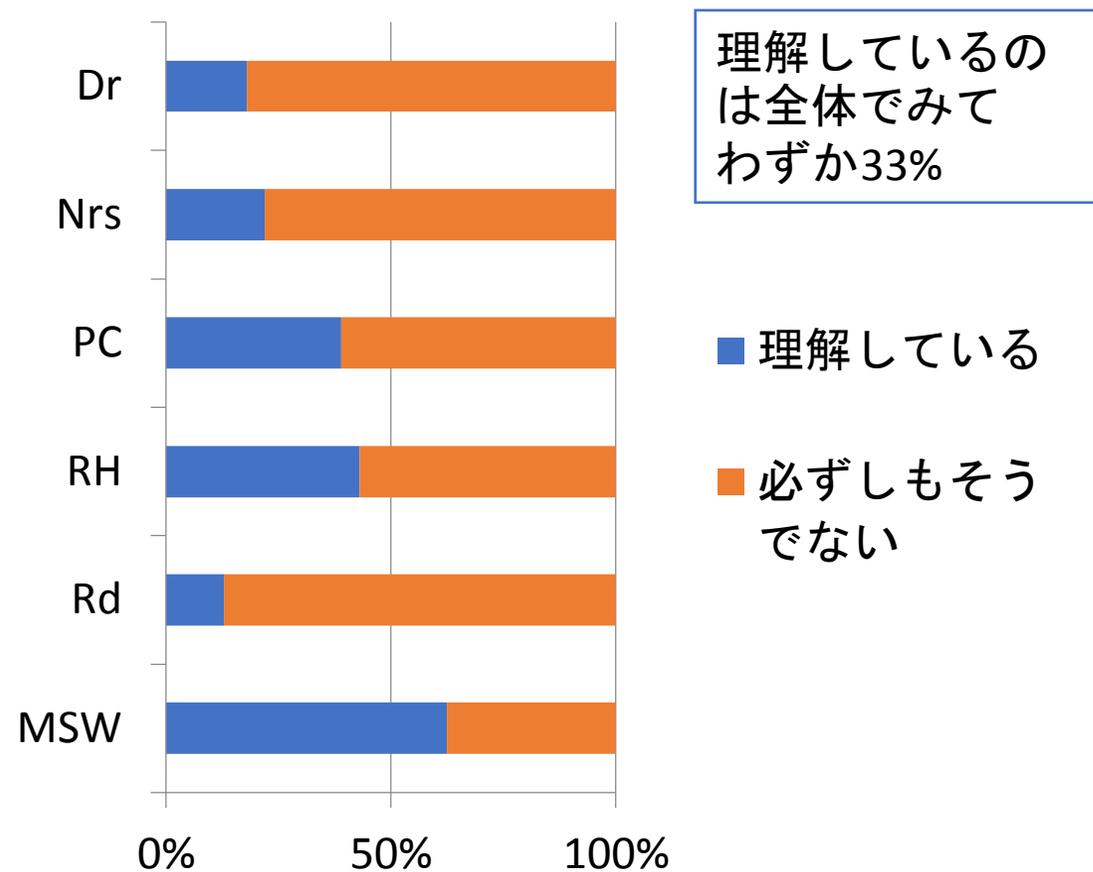
最も関わる職種



最も関わる職種との話しやすさ

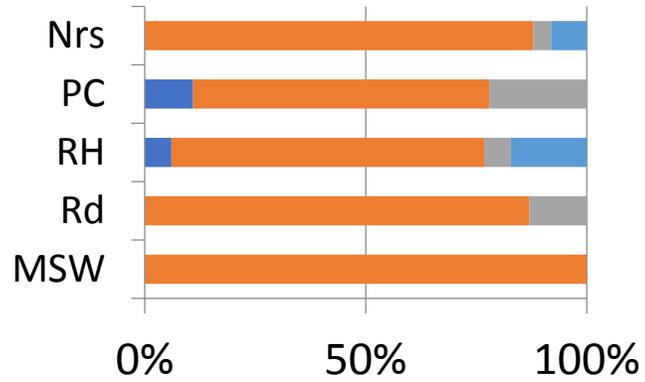


最も関わる職種の業務内容を理解している

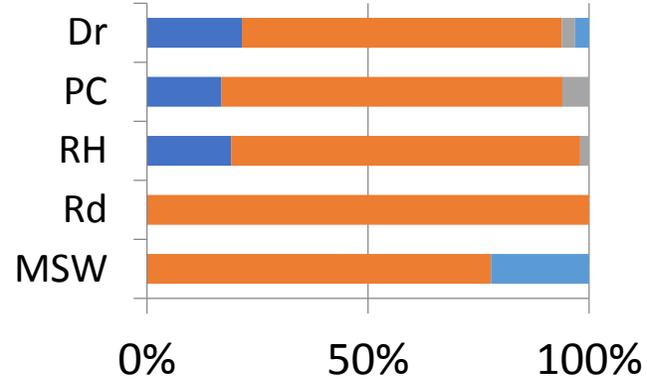


各職種との関係性

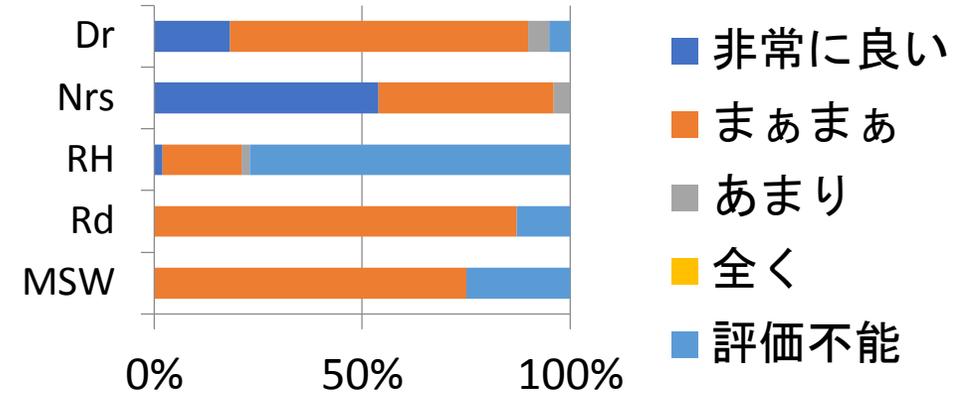
対医師



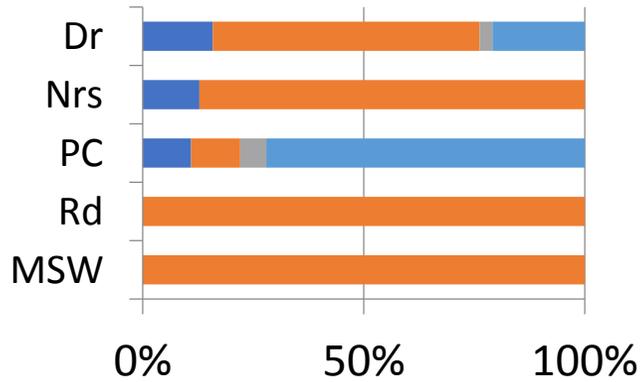
対看護師



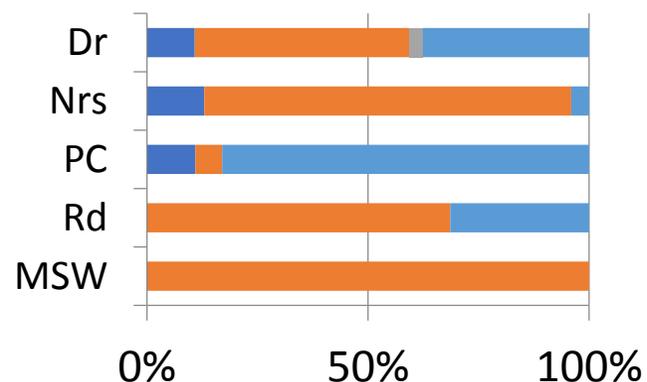
対薬剤師



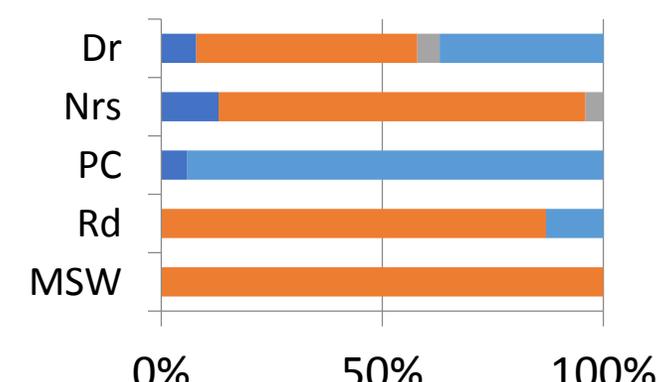
対PT



対OT

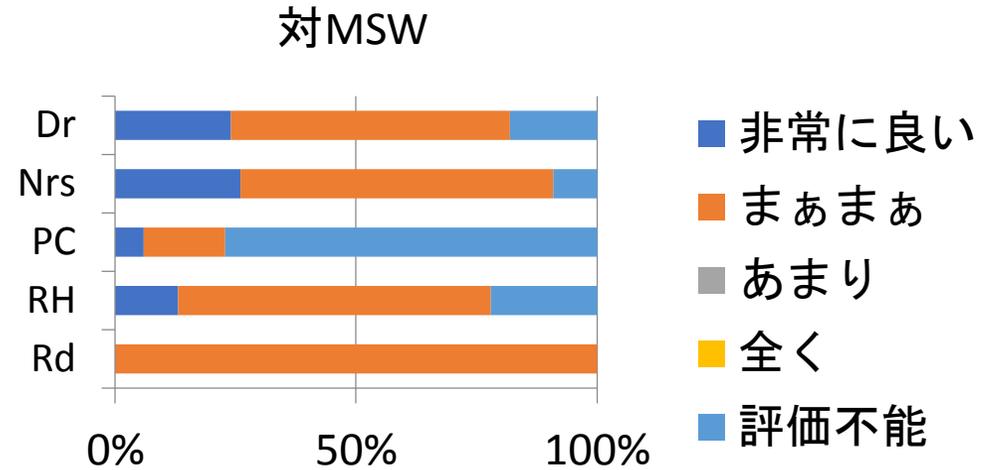
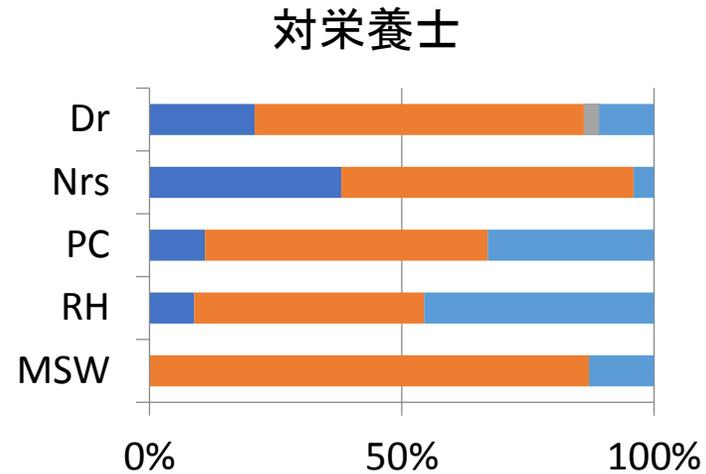


対ST



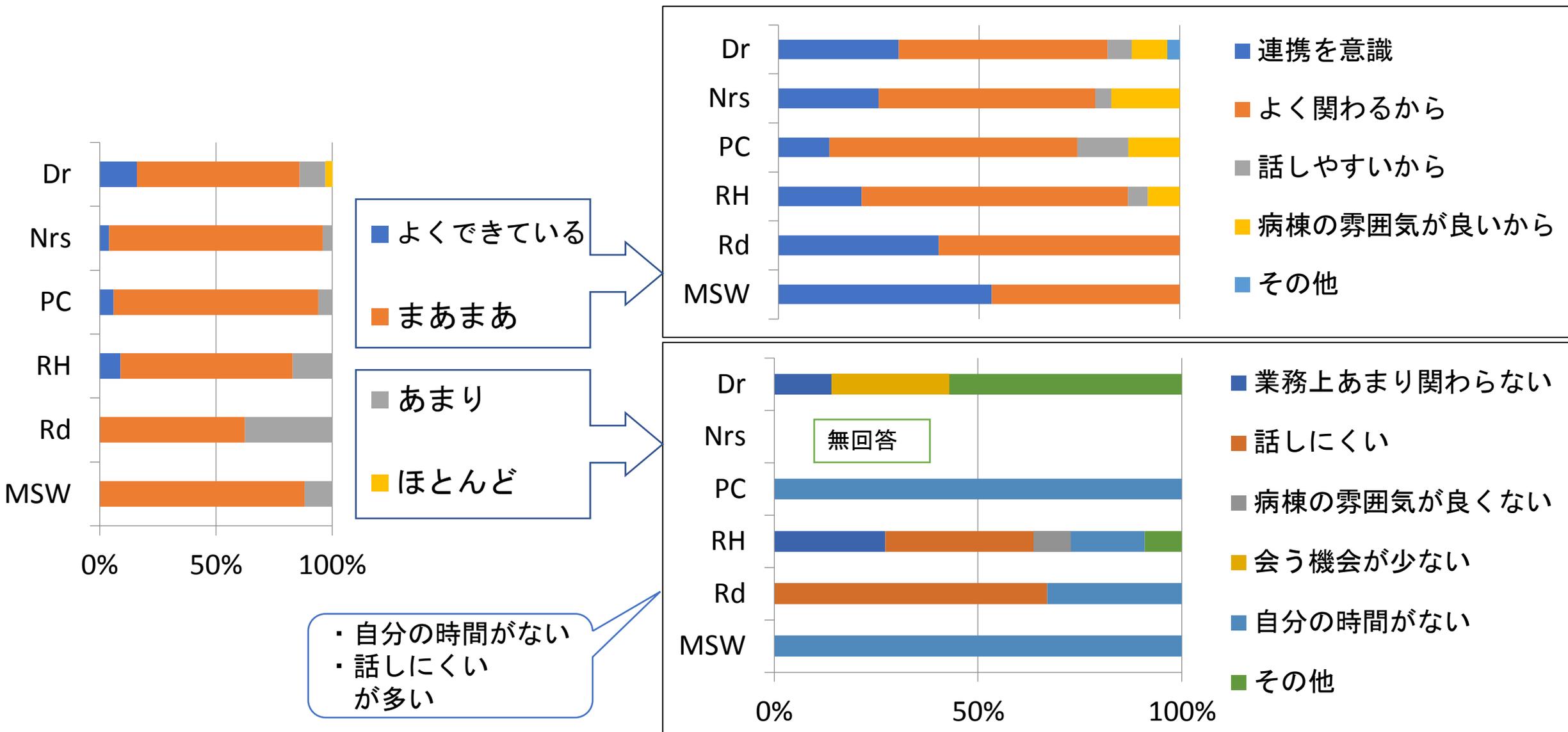
- 非常に良い
- まあまあ
- あまり
- 全く
- 評価不能

各職種との関係性

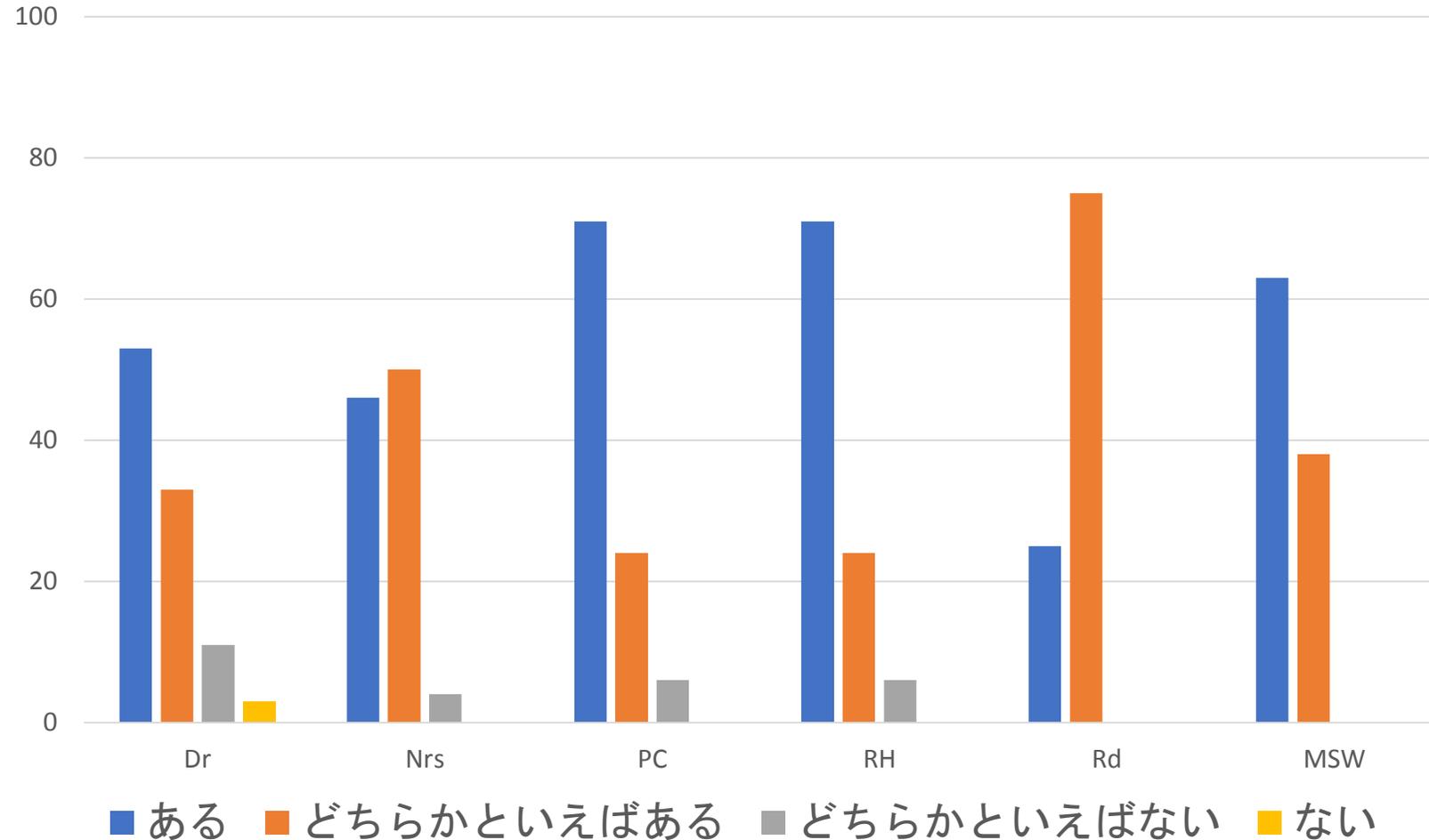


全般に関係性は良い
お互いの職種が同意見ではない

他職種との連携の出来



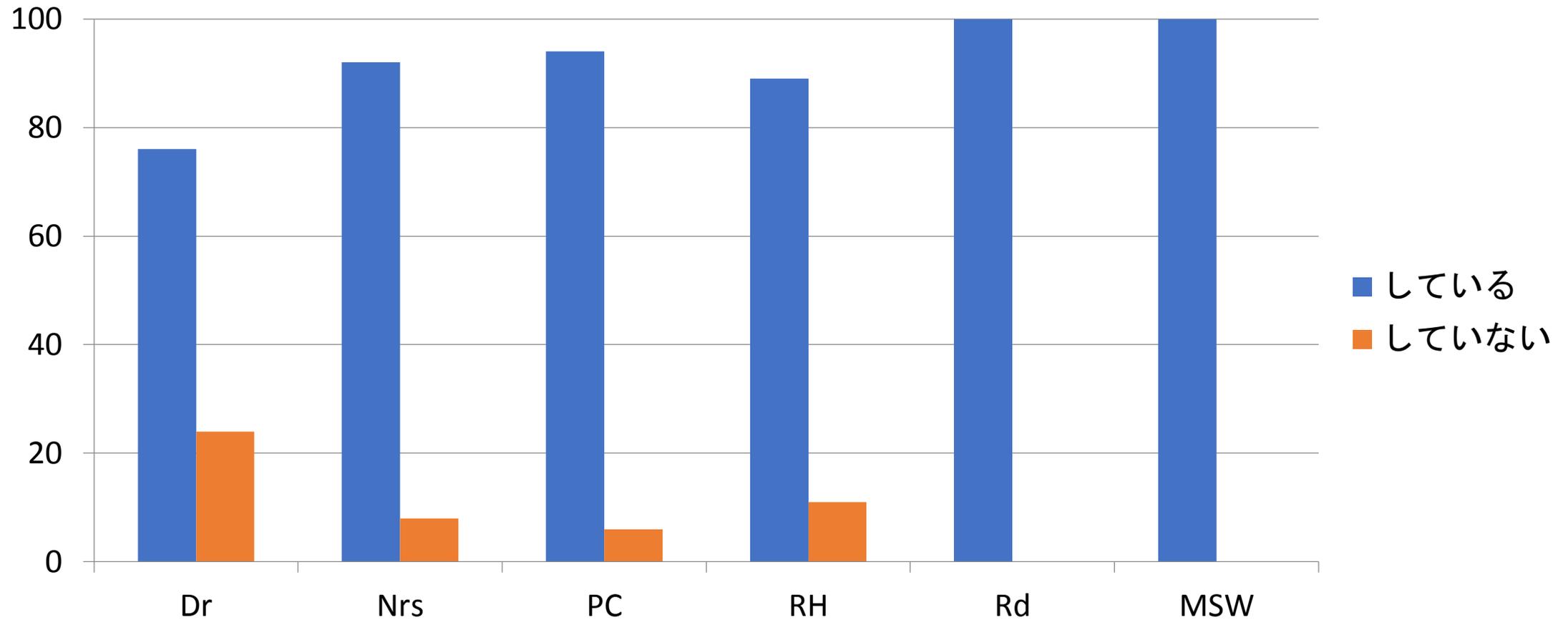
他職種がどう業務をしているか興味があるか？



興味がある
が大半だが
ネガティブな
回答も見られ
た

②カルテ

読みやすいカルテを意識しているか



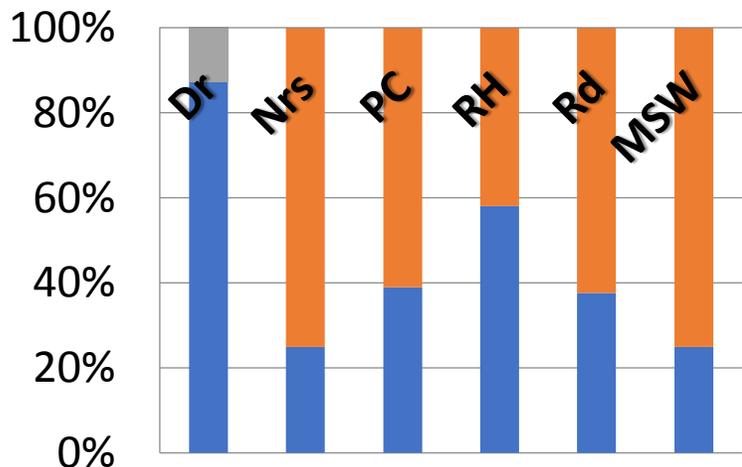
12.2%が意識していない

カルテの読みやすさ

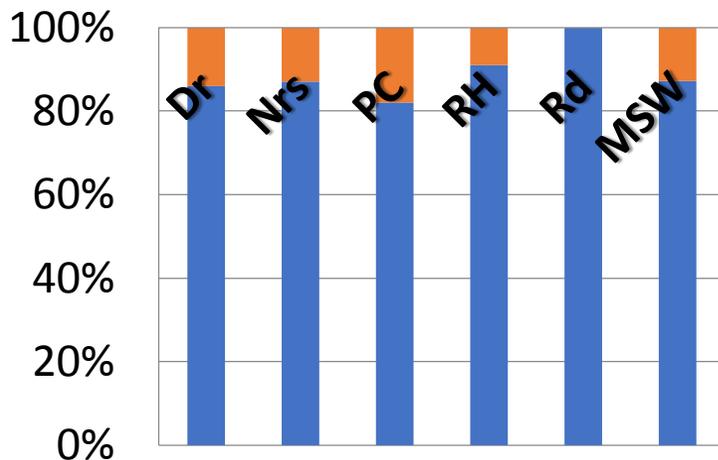
- 普段読まないので評価不能
- 読みにくい
- 読みやすい

読みやすい
が大半

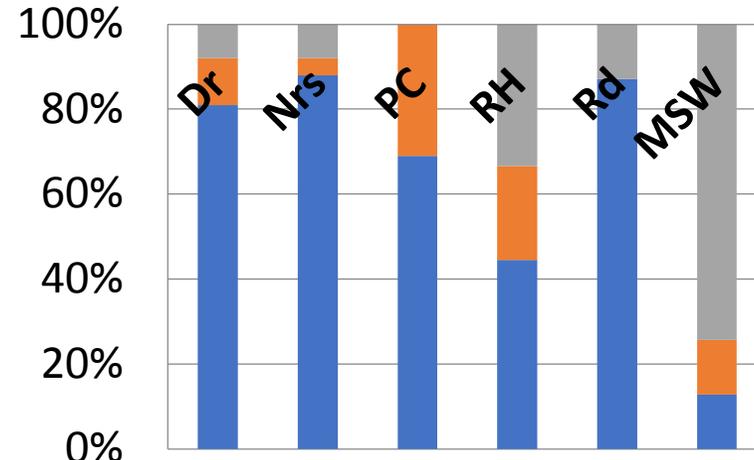
対医師



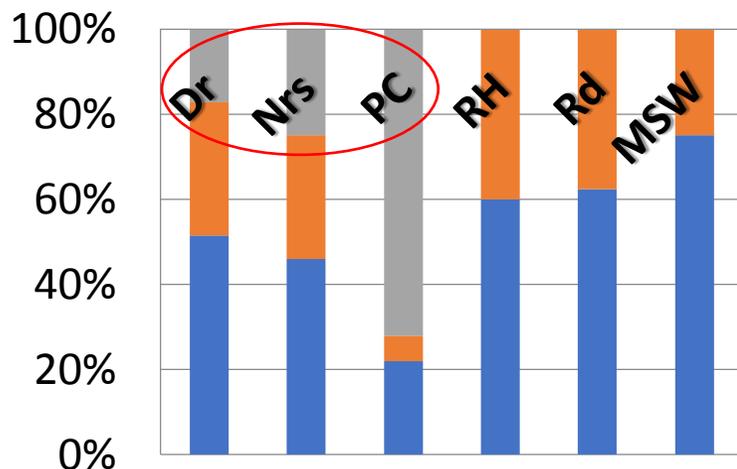
対看護師



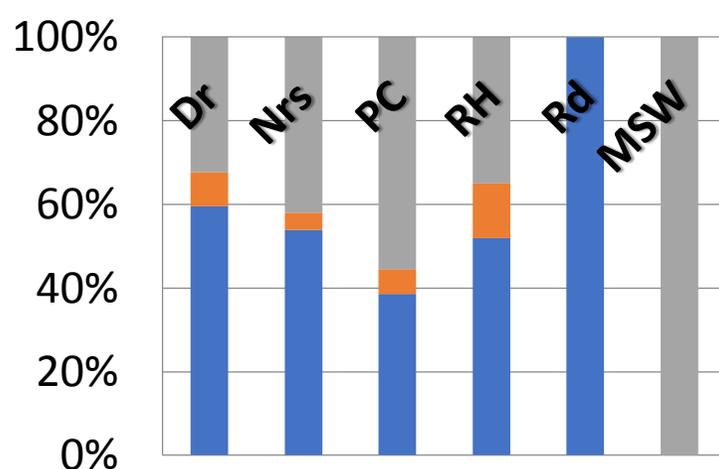
対薬剤師



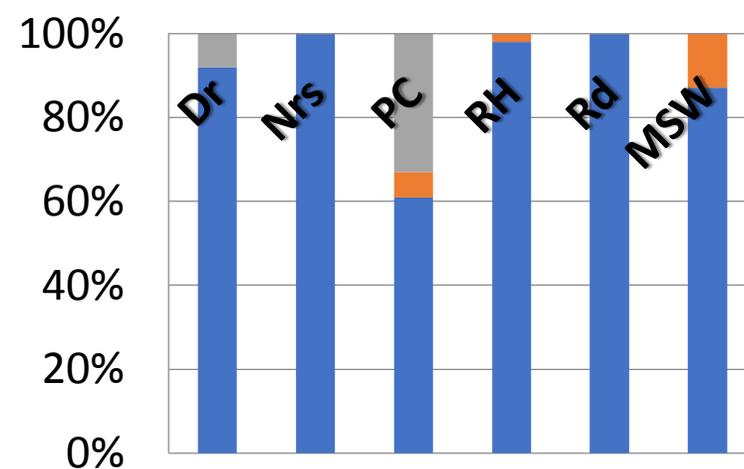
対リハビリ



対栄養士



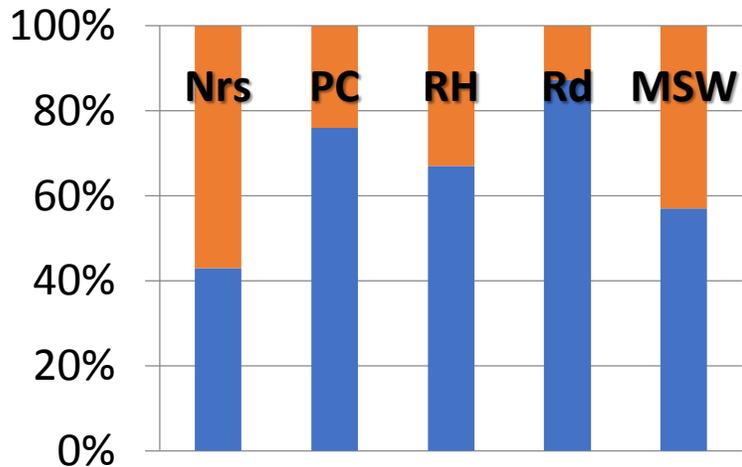
対MSW



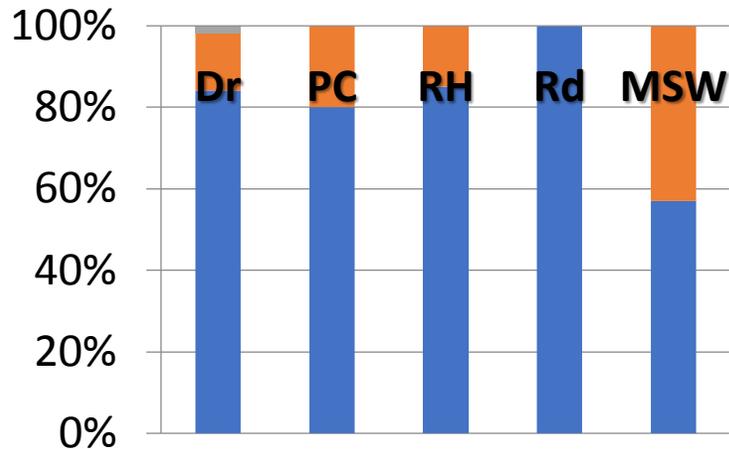
方向性の伝わりやすさ

- 普段読まないので評価不能
- 伝わりにくい
- 伝わりやすい

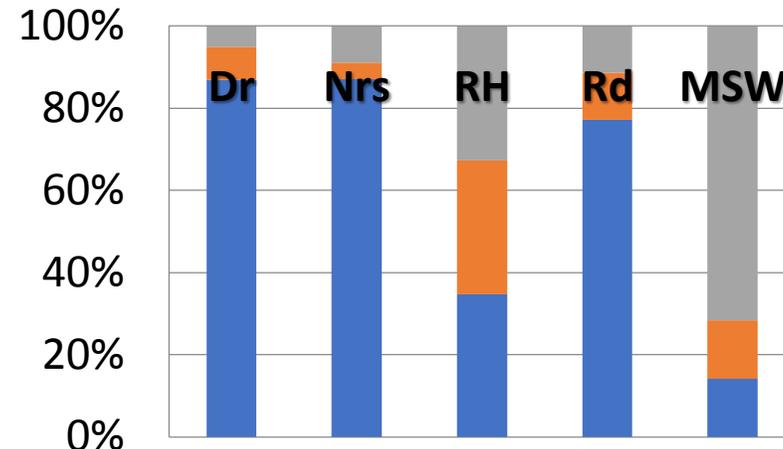
対医師



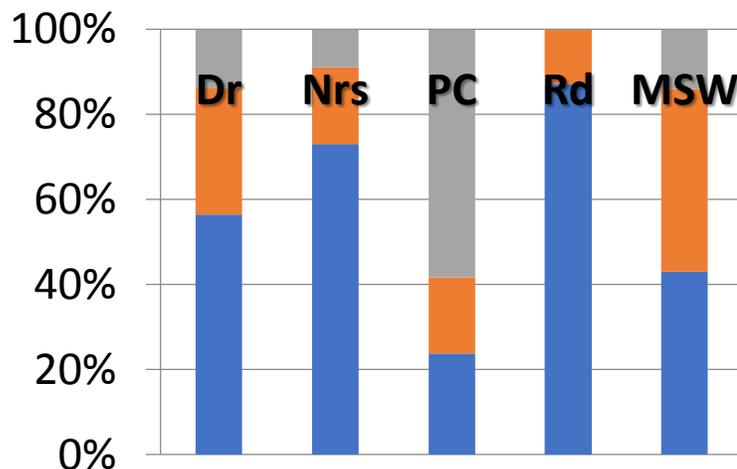
対看護師



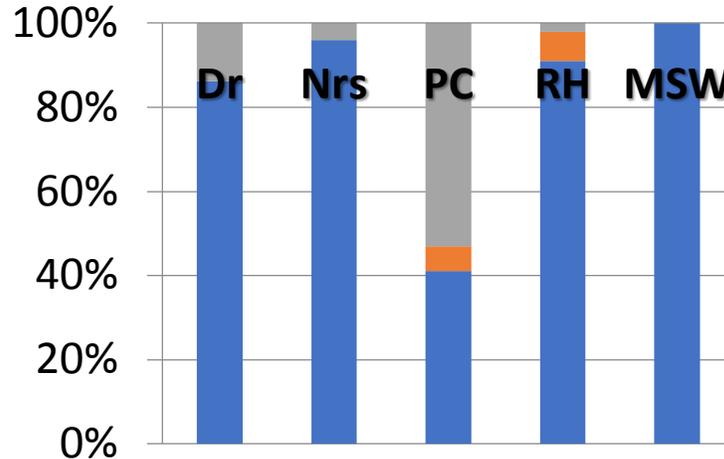
対薬剤師



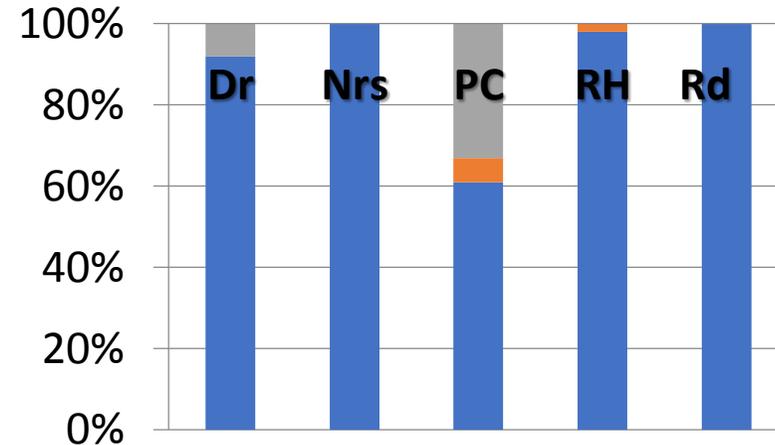
対リハビリ



対栄養士

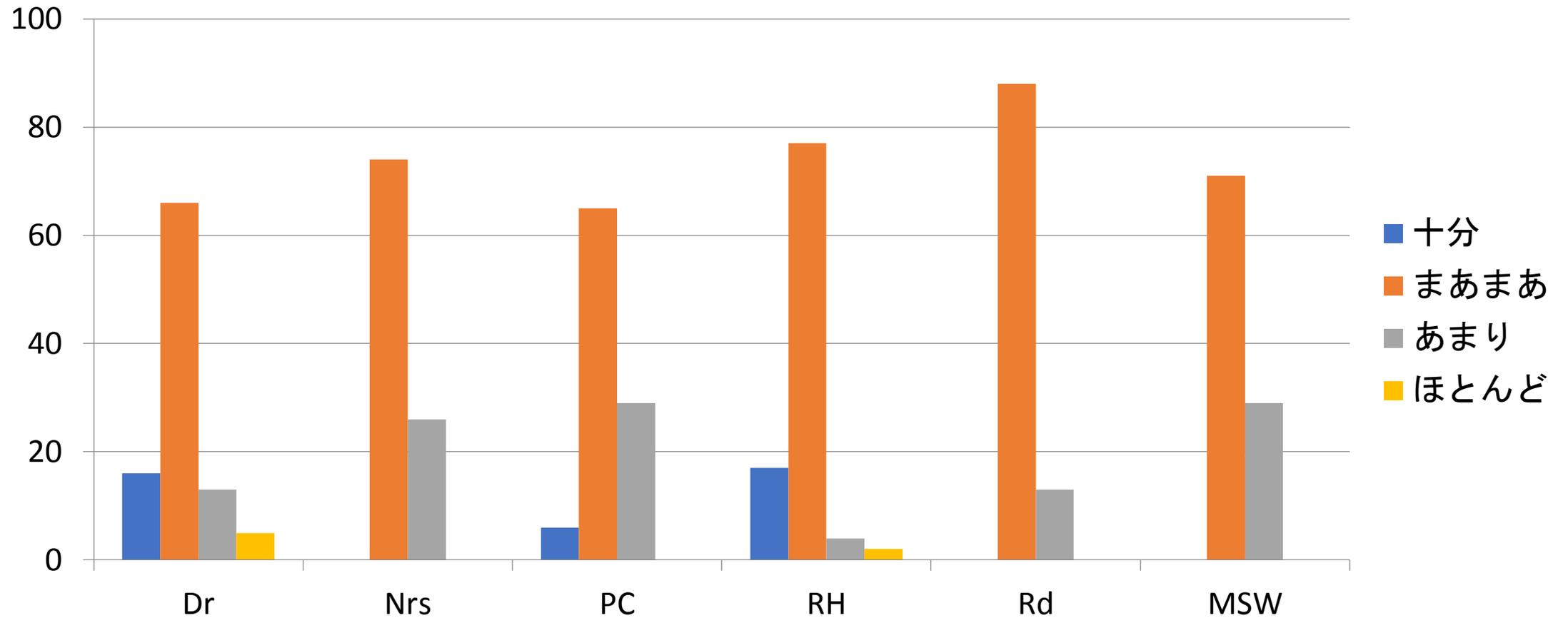


対MSW



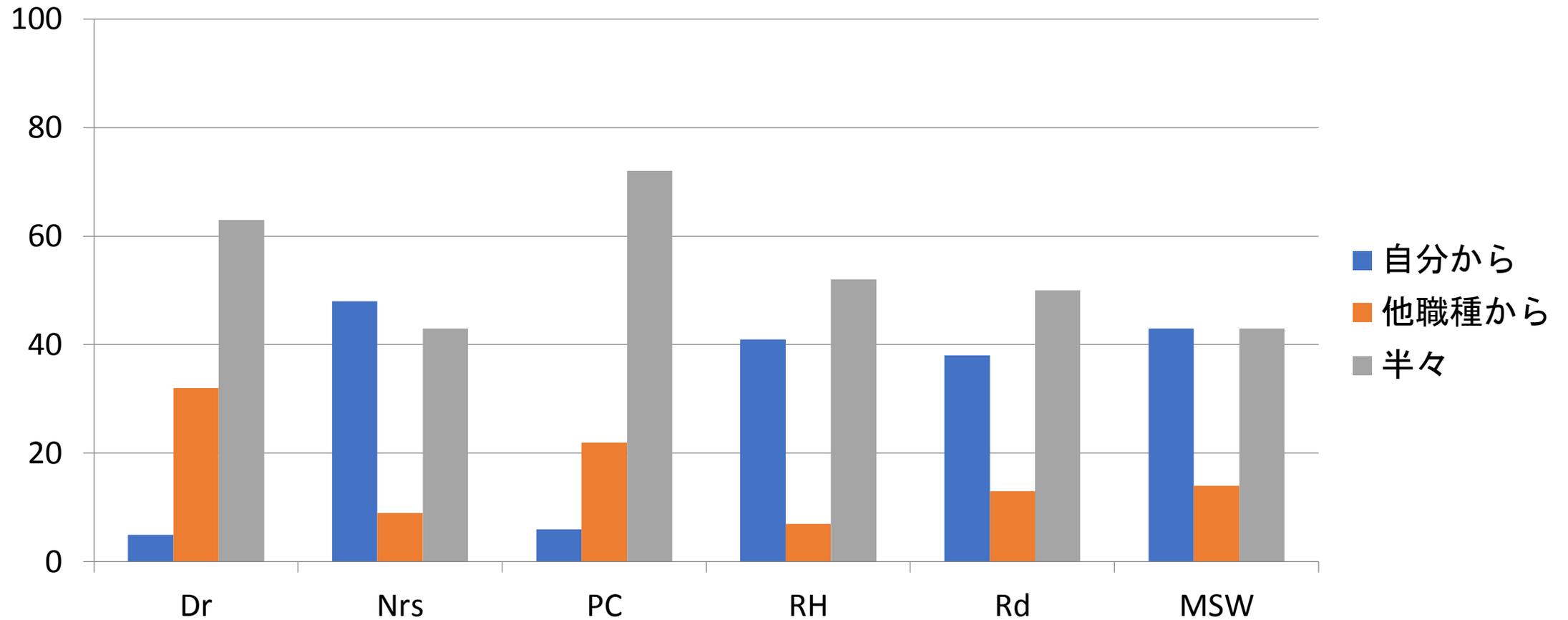
③專門性

他職種と接する際に専門性を活かしているか？



十分に活かさないのはなぜか？

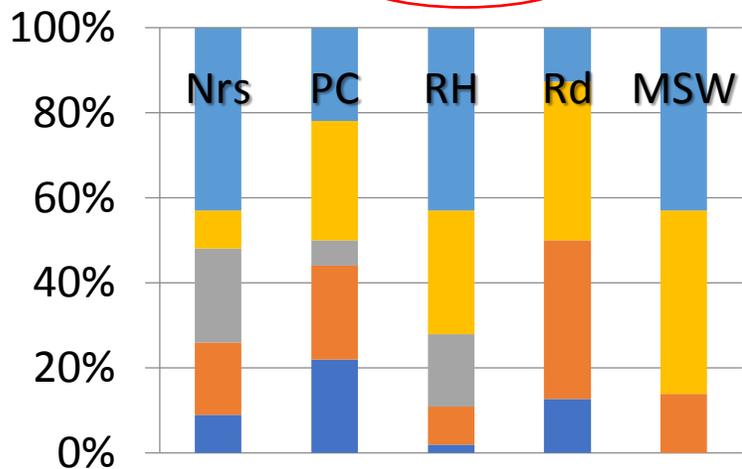
病棟で他職種に話しかける、かけられるどちらが多いか？



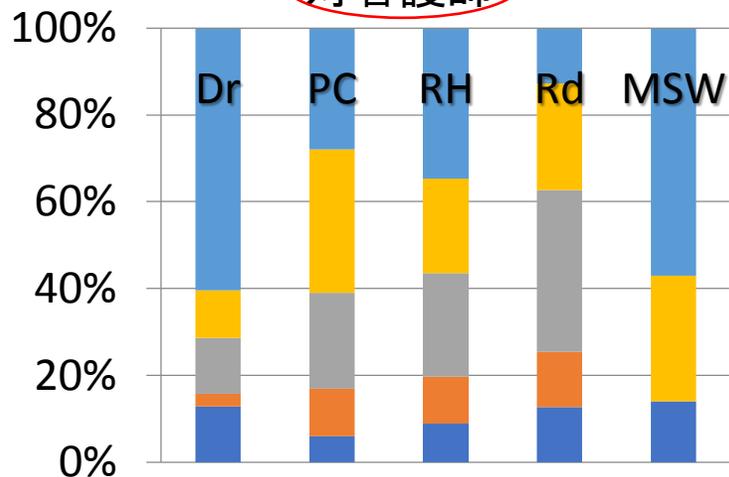
他職種に対して躊躇した頻度

- なし
- 1ヶ月に1回以上
- 1週間に1回以上
- 2～3日に1回以上
- 1日1回以上

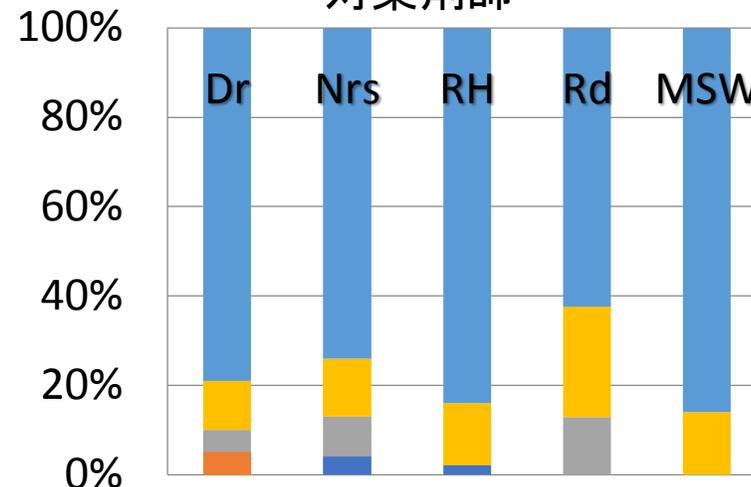
対医師



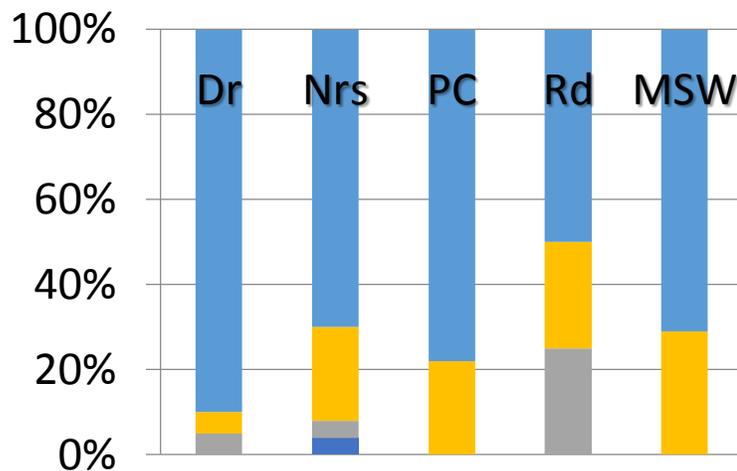
対看護師



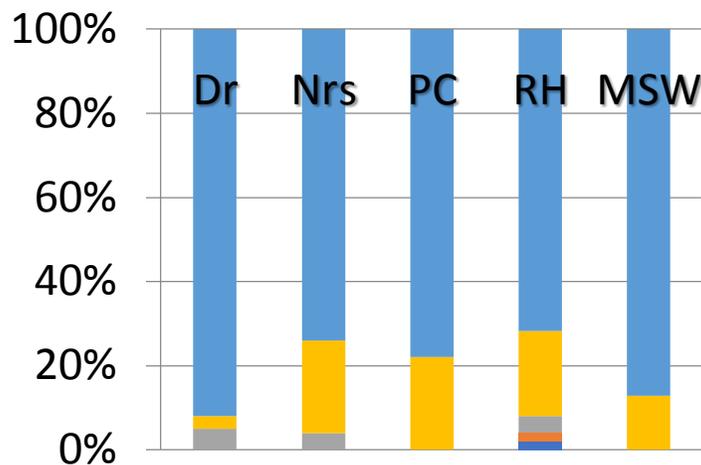
対薬剤師



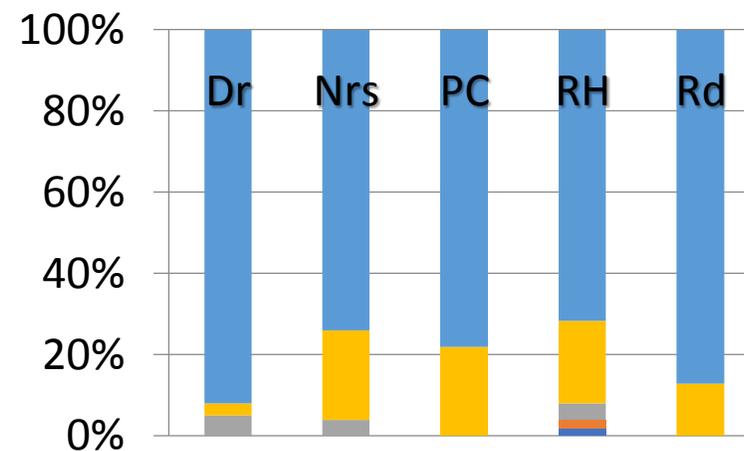
対リハビリ



対栄養士



対MSW



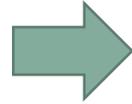
考察

全般的に、

- ・各職種の関係性は良好で、連携も出来ている、他職種の業務に興味がある
- ・読みやすいカルテを意識している
- ・専門性を活かしている

といったポジティブな結果が得られた。

一方で、チーム医療の定義とは



チーム医療とは、一人の患者に複数のメディカルスタッフ(医療専門職)が連携して、治療やケアに当たること。

- 業務上もっともよく関わる割に、「相手の業務内容を理解していない」という回答が多く、関わる上で、「躊躇した」「自分の時間がない」「話しにくい」、少数だが「相手の業務に興味がない」、という回答も散見された。
- リハ職種に対して顕著だったのは、カルテに対し、関連しているはずの職種から、「普段読まない」「読みにくい」「伝わりにくい」との意見 → なんのためのカルテ？

カンファレンスなど話し合いの場が限られ、業務上時間がない状況なら、できることとして最低限カルテから情報発信することを大切にすべきでは。

その上で各職種が相手の役割や、どんな部分を担っているのかが理解できると連携への意識が変えられるのでは？

おわりに

本研究を通してチーム医療に必要と思われたのは、

自職種・他職種の役割を理解し、必要時に共有すること、わかりやすいカルテを書くこと
共有をスムーズに行うために話しかけやすい環境を作ること

上記は当たり前なことだが、達成できていない課題がいくつか抽出できた

患者さんにとって転帰先の決定は今後に関わる重大な事項である。
お互いが連携を意識し患者の治療・ケアにあたっていくことの大切さを改めて認識できた。

フリーコメント 躊躇しないための意識や取り組み

雰囲気作り（例：普段からの挨拶、コミュニケーション）

情報共有

懇親会

患者ファーストの思い

業務負担の軽減

他職種の業務も助ける

会議でファシリテーターを設ける

知識をつける

参考文献

- 1) 急性期病院における各職種¹の他職種²に対する認識の違い, 手稻溪仁会病院 田中寛平 他, 2019
- 2) 骨転移診療に対する職種別の意識調査-メディカルスタッフ間の相違-, 河村健太 他, 理学療法学, 2019, 第46巻第3号, p181-187